2006．1．1

No.137

編集　樋口　みな子

[redacted]

E-mail
minginga@agate.plala.or.jp
郵便振替
「銀河通信」02740－7－56535
（6号分1,000円）

気負わず自然体で

明けましておめでとうございます。

年末に民医連新聞からの依頼で写真を撮るために、野幌森林公園に久しぶりに出かけました。忙しい日々の中で、一服の清涼剤でした。樹氷の花が素晴らしい造形美を作り出していたシラカバや、エゾマツ、トドマツが雪帽子をかぶった姿など、青い空に緑と白のコントラストが美しくしばらくみとれていました。ふと見上げると、エゾリスがカラマツの木をするすると登っているのです。少しも休むことなく餌を探して、たくましく生きている姿に元気をもらいました。森の中は、コゲラやカケスのさえずりで、むしろ冬のほうが賑やかに感ずるほどでした。

昨年は山にのめりこんだ1年でした。

日本山岳会の分水嶺踏査で、私は生まれて初めて山中3泊を経験しました。世界の厳しく高い山とは無縁ですが、それでも、未知の山を地図とGPSとで確認しながら踏査した喜びはかけがいのない体験でした。

ヒマラヤのアピやエベレストなど、さまざまな厳しい山に日本人として初登頂した日本山岳会の平林克敏副会長は、先日の講演で「成果や栄光を期待して行動するのではない。思いやロマンを実現していくために限りない努力を積み重ねることで、自分の心を表現したいと行動してきた」と語っていました。

旭岳・裾合平を目指す（12月18日）

チャレンジ精神を持ち続け、何ごともあきらめずに努力するわたしでありたいです。

世界中で戦争や飢えで苦しむ子どもたち。日本も戦争に巻き込まれないように、平和を大事にする憲法9条を守っていきたいです。

気負わず、自然体で山に登り、ゆっくり本を読んだり、映画も味わって観たいと思います。

今年もご愛読よろしくお願いいたします。

気軽に散歩できる森や林が身近にあったらいいなと思うことはありませんか？　草刈健さんは、週末に雑木林の手入れをしながら自然と自分の心の関係の思索を続けてきました。今にも雪が降りそうな初冬のある日、苫小牧の雑木林の小屋の前で、焚き火を囲み、草刈さんの林への思いを聞きました。（聞き手・樋口みな子）

悲しいときはコナラの林が癒してくれる…

「週末木こり」楽しみながら

自然と心の関係を思索

この雑木林は苫東が所有する緩衝緑地です。１９７６年以来、工業基地の３分の1程度を緑地にするというインダストリアルパーク計画に苫東職員として携わり、この雑木林の間伐も手がけてきました。98年に退職したのですが、自分が育ててきた雑木林を放っておくわけにはいかないと思いまして、ひとりで間伐や薪づくりなど「週末木こり」を楽しんでいます。この時期からが忙しいですね。筋肉もつきます。

ここはコナラとカエデの林ですが、さまざまな野鳥やクマゲラもきます。秋はキノコの宝庫ですよ。北海道で一般的なミズナラの林は往々にして笹丈があり、深くなるのですが、ここの林床はミヤコザサで、あまり大きくなりません。雑木林は手入れすると、動植物のバラエティに富んでいくことが手入れしない林との比較実験でわかりました。手入れしていない林をみたら暗いでしょう？　どす黒くて紅葉しないのです。

草刈健さんが労働と思索を重ねたコナラの林＝苫小牧で

ここにケアーセンターと呼ぶ山小屋を作ったのが97年です。林の中に作られた小屋は、その周りを里山にするんですね。小屋という場があると、人は比較的簡単に林と行き来するようになります。もっとも目立つ場所を選んで小屋を作ったとたんに、しっかりとした座標軸が出来ました。泊まることもしばしばですよ。

林とこころについて考えるきっかけになったのは、40歳を目前にして突如、猛烈な息苦しさに見舞われた体験でした。心臓神経症と診断され、一種のパニック症と診断され、身体的にも精神的にもつらい5年間でした。

それが、あっ、今日で治ったんだと思える日がありました。一つは、京都の竜安寺に立ち寄り、庭の片隅の蹲（つくばい）に「我唯知足」と彫られてあるのを見たときでした。当時の私は、正しいことのためには多少攻撃的になっても発言すべしという生意気な態度だったのですが、その硬い穀が「知足」というしなやかな発想に気づいた時にガラガラと崩れました。

気づきのもう一つは林でした。憂うつな日々にあって、若い雑木林が背中を押してくれるように思ったのです。林全体が包んでくれるようなそんな感覚です。それからですね、林とこころの関係を探究するようになったのは。さまざまな分野の方たちと勉強会を開いたりして、林の癒す効果に気づきました。

ドイツにも足を運びました。ドイツではクナイプ療法（自然療法）の一つとして、森が慢性リウマチなどの治療に利用されているのです。悲しい時、元気のない時にはコナラの林がとても効果があると感じます。この雑木林にも一種の森林療法としてＰＴＳＤやうつ病の方をお迎えする時期がありました。皆さん林から元気をもらって帰られたようでした。

これからは、貴重な自然を守るだけではなく、野生動植物が生息できる空間を確保しながら、人間にも快適で身近な緑を育てることが大事だと思いますね。

◇

草刈さんの著書「林とこころ」（北海道林業改良普及協会）は、札幌駅前・紀伊国屋書店、エコネットワーク、山の店などで販売しています。／定価１５００円。

購読料をありがとう　０５．１２．２～１２．２４

田中さとじ（黒松内町）清水和夫（福島町）武田一生（岩見沢市）仮屋志郎（札幌市）片山篤子（札幌市）伊藤恒雄・牧子（江別市）阿保亘（帯広市）坂井恒俊・京子（旭川市）土本武司（札幌市）斉藤浪子（当別町）安田成男（札幌市）神原照子（登別市）大橋晃（札幌市）高橋桓志（札幌市）太田肇・朋子（世田谷区）笠井嗣夫（札幌市）海老名名保（札幌市）熊沢静子（札幌市）高橋宜也（札幌市）佐藤雅彦（利尻町）佐藤泰子（札幌市）前原満之（宮崎市）三島春光（札幌市）

切手１シート加藤幸子（大田区）切手２シート宮津公一（品川区）8,080円分の切手西村智磨子（小金井市）

カンパも含めての方、滝本幸夫（札幌市）5,000円　塩川哲男（札幌市）3,000円　山川陽一（多摩市）10,000円　板橋雅子（旭川市）5,000円　鎌田直子（市川市）5,000円　菅原ノブ子（釧路市）3,000円　阿部雅樹（札幌市）3,000円　宮崎初恵（札幌市）3,000円

カンパも含めて71,500円は印刷と送料に使わせていただきます。ありがとうございます

高山植物保護 入山規制も

盗掘防止ネットが市民フォーラム

地球温暖化もダメージに

北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会は先月19日、滅びゆく高山植物を守るための市民フォーラムを北海道大学学術交流会館でひらき、市民や加盟団体などから190人が参加しました。

第1部の高山植物保護活動を振り返るパネルディスカッションでは、アポイ岳ファンクラブ、雨竜沼湿原を愛する会、エコ島牧、山歩集団青い山脈、ユウパリコザクラの会から、地域の山の現状とパトロール活動などが報告されました。

それぞれ固有種や希少植物の宝庫として、道内はもとより日本全国から登山愛好家が訪れ、いずれの山でも過剰使用や盗掘などの環境破壊に苦慮している現状が報告されました。（写真）

フロアーから、峠（きりぎし）山自然保護協議会の山岡桂司さんが発言し、1999年から入山制限を継続してきて植生が回復したことや、登山者の意識もおおむね高山植物を守るためには入山制限は有効であるという意見が多かったと報告しました。

第2部は、講演と利尻・礼文の高山植物保護活動の報告や、植物写真家の梅沢俊さんの講演など、盛りだくさんでした。

北大大学院地球環境科学研究院助教授の工藤岳さんが、多様な高山植物が共存できるしくみ、マルハナバチの習性など、地道な観察でわかったことや、地球温暖化が高山植物群落の多様性を大きく損なっていることを証明した実験結果などを報告し、氷河期を生き抜いてきた高山植物を失ってはならないと改めて考えさせられました。

利尻・礼文からは、利尻山の登山道保全のとりくみや、礼文島のレブンアツモリソウを盗掘から守るために「培養苗を販売して市場価格を下げ、普及することを模索している」などの活動が報告されました。

（樋口みな子・北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会）

今年も一期一会を大切に健康な一年を過せたらと願っています。心に残る本や映画をお伝えできたらと思います。今号は本と映画の紹介はお休みします。

読者の皆さまにとっても幸多い一年でありますように。（み）

2005年　みな子の三大ニュース

1　分水嶺踏査で頑張りました

2月にクオベツ丘陵最大の難所の分水嶺を、3月には穂別町と夕張市の境界の長和北尾根、清風山。5月の連休には3泊4日で道北のパンケ山、ペンケ山から天北峠までとイソサンヌプリまでの分水嶺に15キロのザックの重さに耐えて登ったこと。6月にクオベツの残りの踏査を鶴岡節子さん2人で等差。9月の連休にペンケ山に再挑戦しましたが、深い藪のために途中までで断念。トータルで94．4キロの分水嶺を歩きました。

道北・イソサンヌプリを目指して

2　自然保護全国集会に参加しました

4月に、日本山岳会主催の自然保護全国集会が東京で開催され参加しました。全国の自然保護委員との交流でたくさんの友人ができました。

このとき、高尾の森の植樹に参加。450人の市民の参加で、オニグルミ、ヤマグリ、コナラなどを植えました。すごい急斜面で、北海道なら雪ごと雪崩れてしまいそうでした。10年後、私の植えた木がどの位大きく育つか楽しみです。

3　高山植物を守るための市民フォーラムで司会をしました

5月に、北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会のたった2人の事務局で、島牧村にある大平山の自然の素晴らしさを伝える特別授業の裏方を担当。副読本の制作や、地元の小中学校で小野有五さんの授業のお手伝いをしました。

11月に4年ぶりの市民フォーラムが開かれ、190人が参加。午前から夕方までのフォーラムで初めて司会を務めました。その反響でNHKラジオの環境コーナーに出演、5分間しゃべりました。話すという一番苦手なことに挑戦し新たな自分を発見しました。

お便り

◆何やかやと、お忙しそうですね。高山植物の市民フォーラムの様子は「銀河通信」で拝見しました。NWの皆さん方は、それぞれの地域で、元気にしっかり活動されているようで、感激しました。ありがたいことです。
（春日部市　O．Nさん）

江別市・但馬桂子さんのスケッチ「ヒロハツリバナ」

◆いつもお届け頂きありがとうございます。今回の冒頭文のテーマ「愚直にひたむきに」良いですね。しかも一歩一歩成長していくみな子さん自身をご自分で確認していらっしゃることもまた、私にとっても勇気をもらえたようでうれしいです。矢臼別の川瀬さんが「人生時速4キロ」「これで良しと言う毎日を送れば人生に悔いなし」。そしてまた川瀬さんも「愚直」と話していました。

私もまた、次の人生の道をひたむきの時速4キロで進もうと思えました。1月7～8日とスキークラブで新春スキー教室を開く準備をしています。山スキーの準備にゲレンデのスキー練習にどうかなと思って連絡しました。今年初めてスノーシューをしましたよ。（江別市　T．Kさん）

千葉市・芳賀淳子さんのスケッチ「北横岳ヒュッテ」

◆素晴らしい仲間とご家族の理解と支援に恵まれ、努力なさっておいでの様子がうかがえて羨ましくすら思えます。日頃の精進がそうさせることなのでしょう。　（小金井市　N．Tさん）

◆　私は、分水嶺のわが委員会担当分野が未踏で、若干苦労しています。退職以後、スーツ、ネクタイなど一切捨て去りました。
（品川区　M．Kさん）

◆　島牧村の特別授業、聞きに行きたかった！子どもたちが「すごいいいところに住んでいるんだーっ」って育って欲しい。
（黒松内町　T．Sさん）

◆いつも楽しく読んでいます。私もいつか北海道に帰りたいと思いながら。どうぞすてきな2006年を！お元気で。
（作家　加藤幸子さん）